

日本産業看護学会第2回学術集会開催報告
The Report of “The 2nd Annual Conference of Japan Academy of
Occupational Health Nursing”

上 田 晴 美
西 上 あ ゆ み
西 内 恭 子

日本産業看護学会第2回学術集会開催報告

The Report of “The 2nd Annual Conference of Japan Academy of Occupational Health Nursing”

上 田 晴 美 ¹⁾

UEDA Harumi

西 上 あゆみ ¹⁾

NISHIGAMI Ayumi

西 内 恭 子 ¹⁾

NISHIUCHI Kyoko

キーワード：産業看護、職域ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシー、健康経営

Key words：occupational health nursing, workplace health promotion, health literacy, healthy company

要 約

平成25年11月30日、梅花女子大学において日本産業看護学会第2回学術集会が開催された。本学術集会では、「産業看護力の集結～新たな労働と健康の調和を求めて～」というメインテーマのもと、会長講演・基調講演・シンポジウム・特別講演・一般演題（口演）を行い、現在の社会経済状況と労働との相互作用で発生する健康課題をふまえた産業看護活動のあり方、産業看護活動の発展と教育・研究の方向性について討論した。

本学術集会における討論を通して、産業看護学会の学術的な意義が確認され、産業看護の発展がわが国の労働者の健康、ひいては社会経済の発展に寄与することが改めて認識された。

今後は、日本産業看護学会が、学術集会・学会誌の充実及び活動範囲の拡充により、わが国の産業看護の発展に貢献できることを期待したい。

平成25年11月30日に梅花女子大学において、日本産業看護学会第2回学術集会を開催したので報告する。

Ⅰ. 日本産業看護学会の紹介

わが国では、日本産業衛生学会産業看護部の産業看護職継続教育システムによる産業看護師の卒後教育が1996年から体系的に実

施されている。しかし、平成22年に実施された「産業看護活動実態調査」（産業看護研究センター,2011）では、過去5年以内の学会や研究会での発表をしていない人が61.6%、

1) 梅花女子大学 看護学部 看護学科

継続教育を受講していない人が33.1%となっており、産業看護職の学術活動が不十分な実態が明らかとなった。また、産業看護学の発展のためには高度実践看護師教育が必要であること、日本の人口の約6割が労働者であり看護のあらゆる場面で労働者に対する可能性があることなどから、産業看護教育は看護基礎教育において必要不可欠と考えられる。このような実情から、平成24年12月8日に「産業看護学の発展と高度な実践能力の開発により社会に貢献すること」を目的として日本産業看護学会が、設立された（日本産業看護学会定款,2012）。

本学会設立にあたり、設立発起人代表の河野は、「産業看護は、日本産業衛生学会産業部会により定義づけられ、産業看護職が産業保健専門チームの一員として看護専門職の立場で活動することについて社会的認知は得られつつある一方で、産業看護の学問的な体系化、高度な実践能力は未熟であり、産業看護学の学問的体系化が重要である」と指摘している（日本産業看護学会設立総会,2012）。

本学会は、設立間もないが、既に学術集会を2度開催し、今後も年1回の定期開催を予定している。また、平成26年3月より日本産業看護学会誌がeジャーナルとして刊行されている（<http://www.jaohn.com/journal>）。

Ⅱ. 日本産業看護学会第2回学術集会のテーマ

日本産業看護学会第1回学術集会では、設立趣旨を反映して「未来へはばたく産業看護学」をメインテーマとし、学問としての産業看護の発展と高度な実践能力の開発と産業看護への期待について討論し、高度な実践能力を有する産業看護師育成が不可欠であること、そのためには産業看護学を看護基礎教育に位置づけること、その前提として産業看護学の研究推進と体系化が必要であることを確



写真1 開会式

認した。

今回開催した第2回学術集会では、「産業看護力の集結～新たな労働と健康の調和を求めて～」をメインテーマとして掲げ、産業看護の究極の目標を再認識し、現在の社会経済状況と労働との相互作用で発生する健康課題をとおして産業看護活動のあり方について考察するとともに、教育や実践現場で働く方々とより良い産業看護活動の発展と教育・研究の方向性についての討論を行った。

Ⅲ. 日本産業看護学会第2回学術集会の概要

本学術集会では、会長講演・基調講演・シンポジウム・特別講演・一般演題（口演）が行われた（表）。以下にそれぞれの内容を示す。

1. 会長講演

会長講演では、西内学術集会長が本学術集会のメインテーマを紹介した。本講演では、労働者のヘルスリテラシーの向上に加え、経営戦略に健康施策を組み込むという職域ヘルスプロ



写真2 会長講演

モーション（以下 WHP：Workplace health promotion）の実現について事業者の理解を深めることが今後の産業看護の課題として強調された。

午前		F 種 1 階 F101教室		第 1 会場 澤山記念館 講堂		第 2 会場 F101教室		第 3 会場 F602教室	

表 出典 日本産業看護学会第2回学術集会抄録集(2013).4-5

2. 基調講演

基調講演は、順天堂大学医学部総合診療科の福田洋氏より「職域ヘルスプロモーションと産業看護 ～働き盛りのヘルスリテラシーを高める～」というテーマで、職域の強みを生かしたヘルスプロモーションと生涯をかけたヘルスリテラシーの向上についてご講演い



写真3 基調講演

ただいた。本講演では WHP の動向と特定健康診査・特定保健指導に関する報告や考察をとおして、「低成長時代の中、企業の生産性も見据えつつ、新たな労働と健康の調和を求める時、従業員のヘルスリテラシーの向上というのは一つのキーワードになる」との考えが示された。

3. 特別講演

特別講演は、大阪ガス株式会社産業医の岡田邦夫氏より「健康経営と産業保健」というテーマで、ヘルシーカンパニーの創造、健康経営と産業保健活動、産業看護職の役割についてご講演いただいた。

岡田氏は、「健康経営」を推進することにより、企業はその存在価値を高めさらに企業の内部収益を高めることができると述べ、従業



写真4 特別講演

員の健康にかかわるコンプライアンス、従業員の健康にかかわる経営上のリスクマネジメント、従業員のヘルスマネジメント、従業員に対する健康づくり事業の取組み、企業の社会的責任、事業者の意識の6つの軸が健康経営推進の基本になるという考えを示した。また、経営者、管理監督者を含めた働く人一人ひとりの健康が企業の経営を支えているという考えをもち、それぞれの役割を果たすことが重要であり、産業保健スタッフの力量も業績評価の対象となることについて事例を用いて具体的な説明があった。

4. シンポジウム

シンポジウムでは、企業の人事担当者、社会保険労務士、産業看護職という異なる立場で産業保健に関わる3名のシンポジストを迎え、「企業経営を支援するヘルスプロモーションと産業看護」という視点で、それぞれの立場から労働と健康の調和における産業看護職の役割について示唆に富んだ意見をご提示いただいた。その後、会場の参加者を交えて企業経営を支援するヘルスプロモーションを実践するために、産業看護職に求められる視点・手法・役割についてディスカッションが行われた。



写真5 シンポジウム

人事担当者の廣瀬氏からは、「企業は、産業看護職に医療分野に関する専門性に加え、コミュニケーション能力、社内外の関係者と連携や協力関係を築ける折衝・調整力、短期

長期的視点をもって対応できる能力を求めている」という産業看護職に期待する能力の提示があった。

社会保険労務士の中尾氏は、「職場における安全衛生管理として、安全衛生管理体制の確立、安全衛生基本方針に基づく年間重点方針の決定と安全衛生計画の策定、ヒヤリハット活動をあげ、安全な職場環境づくりのためには、風通しの良い職場風土づくりと経営トップの“安全衛生はすべてに優先する”という姿勢が重要である」と述べ、企業経営における安全と産業保健の重要性を指摘した。産業看護職の村田氏は、中小企業を対象として行った「少ない費用で効果を上げる保健活動」の実践例をとおり、個々のニーズを汲み取り、無料あるいは低料金で利用できる資源を活用することで、効率的で継続的な保健活動を実施できることを示した。

5. 一般演題

一般演題は、13題の登録があり、不眠やストレスなどのメンタルヘルス対策、労働者の健康づくり、産業看護職の能力についてなど様々な視点から産業看護に関する口演が行われた。

Ⅳ. 日本産業看護学会第2回学術集会の参加者

本学術集会の参加者は、156名で、前回とほぼ同数であった。参加者の内、40名は、来賓、講師、スタッフ、学生ボランティアで



写真6 参加者の様子

あるが、事務スタッフ8名を除く32名は、講演・シンポジウム等にも参加した。そのため、学術集会の実質的な参加者は、148名と考えられる。

148名の参加者の職種は、保健師57名(38.5%)、看護師17名(11.5%)、看護学生16名(10.8%)の順で多かった。産業看護学会である以上、産業看護職の参加が多いことは想定されたが、保健師が全体の40%と特に多く、産業看護に占める保健師の重要性が増していることが推察される。また、148名の参加者から来賓や講師、スタッフ、学生ボランティアを除いた116名のうち52名(44.8%)が非会員であり、学会員登録の有無にかかわらず、学習意欲が高い産業看護師がいることが示唆された。

以上より、今後、本学会においても学術集会・学会誌の発行のみでなく、研修会や学術書の発行、研究支援など活動の場を広げていくことが求められると考えられる。

V. まとめ

産業看護学会は、設立3年目という若い学会であり、認知度は十分とは言えないが、今回の学術集会を通して、その学術的な意義が確認され、産業看護の発展がわが国の労働者の健康のみならず、社会経済の発展に寄与することが改めて認識された。

今後、日本産業看護学会が、学術集会・産業看護学会誌の充実に加え、研修会・調査研

究の実施、産業看護教育のあり方の検討など活動範囲を広げ、わが国の産業看護の発展に貢献できることを期待したい。

謝 辞

本学術集会の開催にあたり、ご支援とご協力をいただいた関係者・関係団体の方々に心より感謝を申し上げます。

文 献

- ・河野啓子(2012). 今、なぜ、日本産業看護学会の設立が必要か?. 日本産業看護学会設立総会, 2.
- ・日本産業看護学会(2012). 趣意書, 日本産業看護学会設立総会, 12-13.
- ・河野啓子(2012). 日本産業看護学会がめざすもの. 日本産業看護学会第1回学術集会抄録集, 2-9.
- ・日本産業看護学会(2014). 学会の沿革. 2014年7月13日, <http://www.jaohn.com/history> (日本産業看護学会ホームページ).
- ・日本産業看護学会第2回学術集会事務局(2013). 日本産業看護学会第2回学術集会抄録集.
- ・産業看護研究センター(2011). 平成22年産業看護活動の実態調査報告書～産業看護の方向性と課題～, 33. 2014年6月20日, <http://www.y-nm.ac.jp/yrro/houkokusyo/22houkokusyo.pdf>